

安全で快適な住まい方をめざす生徒の育成

～体験的学習を取り入れた住生活の指導計画～

1. 設定理由

住まいは家庭生活の中心にあり、人はより快適に生活することを求めて住環境をつくり上げてきた。また、住まいは衣服同様、気候や文化に大きくかかわりながら発達し、私たちが健康で文化的な生活を営むために必要なものである。

家庭科教育において、住生活に関する学習は指導要領の改訂により、内容が精選され、学習の充実が求められている。「住生活」は「衣」「食」と比較して指導の時間や実践の割合が少ない分野であったが、生徒が自分の生活を振り返り、住まいに関して興味関心を持って学習にとりくめるような指導方法を工夫していきたいと考えた。まずは、身近な住環境に目を向け、そこから住生活に対して問題意識を持たせることが大切である。住まいのはたらきや快適に住まうための工夫を学ぶことで、そこにかかわる家族とのつながりや自分でできることを考えながら、自分の生活をより快適にしていこうという力を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 仮説

身近な住環境に着目して、体験的な学習や話し合い活動を工夫すれば、住生活に対して興味関心が高まり、安全で快適な住まい方を実践しようとする生徒が育つであろう。

3. 研究内容

- (1) 住生活の学習における、指導計画の工夫
- (2) 体験的学習や話し合い活動を取り入れた授業実践
 - 実践1 家の間取りを考えよう
 - 実践2 快適な住まい方～室内環境を整えよう～
 - 実践3 モデルハウスを見学しよう

4. 結論

- ・学校や自分の家の住環境に着目し、題材を設定することで、自分の身近にある住まいに関心を持ち、意欲的に学習にとりくむことができた。
- ・体験的な学習を通して、住まいのはたらきを理解し、より快適な住まい方を工夫しようという態度が見られた。